

久留米大学を受診した患者さんへ

「高地渡航者の後ろ向き解析」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料（情報）を使用します。

- 1) 受診期間：平成 19 年 4 月から平成 28 年 12 月の間に受診
- 2) 受診科：感染制御科（海外渡航・ワクチン外来）
- 3) 対象疾患名：ダイアモックスを処方された方
- 4) 使用する試料（情報）：診療情報等

あなたの試料（情報）を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申しあげます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申しあげます。

- 1) 研究組織：所属：感染制御学講座

研究責任者：感染制御学講座 教授 渡邊 浩

研究分担者：感染制御学講座 准教授 濱田 信之

感染制御学講座 講師 升永 憲治

感染制御学講座 助教 岩橋 潤

感染制御学講座 助教 八板 謙一郎

久留米大学病院 薬剤部 副主任 酒井 義朗

2) 研究の意義と目的：我々は久留米大学病院内で海外渡航・ワクチン外来を行い、ワクチン接種などを行っています。高地に行く受診者もあり、我々は予防薬としてダイアモックスを処方しています。ですが、ダイアモックスを所望する受診者はなかなかワクチン接種にまで至らない（希望しない）傾向があるようです。ただし、行かれる国は途上国が多いのが現実で、A 型肝炎ワクチンや破傷風ワクチンは必要であることも事実です。我々の施設で過去約 10 年間(2007 年 4 月～2016 年 12 月)のダイアモックス被処方例を抽出し、その症例特性、またその他ワクチンがどれだけ接種されたかそれぞれの割合を解析します。具体的には、年齢、性別、渡航先、渡航目的、過去・また渡航前のワクチン接種有無、ワクチンの種類、初診から渡航までの期間、渡航期間などを解析しその傾向を探ります。高地への渡航者がどのような特性を持つ集団か、またどのような症例でワクチン接種にまで至らなかったかを症例集積研究で明らかにすることが目的です。

- 3) 研究の方法：

① 平成 19 年 4 月～平成 26 年 12 月でダイアモックスを海外渡航・ワクチン外来で高山病予防のためダイアモックスを処方された受診者を抽出します。

- ② それぞれの症例の年齢、性別、渡航先、過去・また渡航前のワクチン接種有無、ワクチンの種類、初診から渡航までの期間でラインリストを作成します。
- ③ それら全体を数値化し、table として要約します。
- ④ 考察の後、学会発表を行い、論文としてまとめます。

4) 研究期間：平成 29 年 1 月倫理委員会承認後から平成 33 年 12 月まで

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：高地への渡航者の解析をするためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：研究の実施に関わる者は被験者のプライバシー及び個人情報保護に十分配慮します。研究責任者は研究の実施に際して、データ等の保護に必要な体制を整備します。研究で得られた被験者データを本研究以外の目的以外で使用する場合は、必要に応じて別途対象者から同意を得ます。

7) 研究成果の発表の方法：本研究での研究成果は、日本渡航医学会・国際渡航医学会などでの発表及び論文により学術誌への発表を行う予定です。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学医学部感染制御学講座

電話：0942-31-7549

研究担当者：八板 謙一郎